

## 急須の焼キズ(製造過程のキズ)と後キズ・・・(常滑焼急須の強度)

常滑焼は、分類上磁器と陶器の間の炝器という分類に入ります。一般的には陶器より硬く磁器より軟らかいということになります。破壊するような強い衝撃は別として、焼物では割れるような衝撃でもヒビが入るだけということがあります。焼物への衝撃は、圧力のかかる角度により千差万別の結果がでます。壊れるほどの衝撃でもないのに壊れたり、急須や湯呑の蓋などコンクリートの上に落としても角度がよければ壊れない場合もあります。

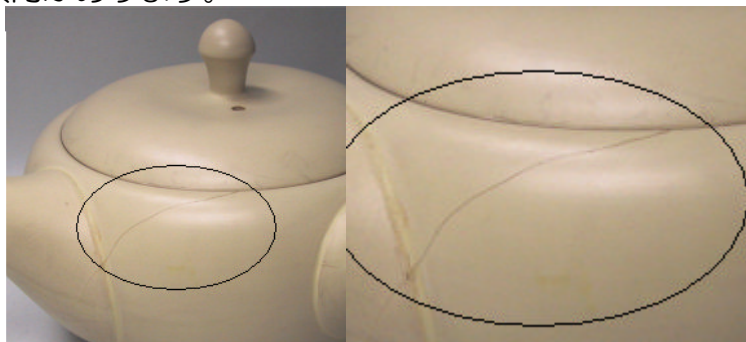
磁器の飯茶碗や湯呑でもよくヒビが入っているものを使っているのを見かけます。

この場合は、ヒビ割れを認知しているが水漏れしないので使っていると思われます。またこのキズが付いた時(衝撃等を受けた)は、真っ白だったと思われます。使っている間に茶渋や汚れでキズがはっきり見えるようになります。しかし色物陶器や常滑の朱泥急須等はヒビに茶渋が入っても磁器製のものより目立ちません、それで見落とすことが多いです。結果ある日突然急須が破損したということが起こります。衝撃を受けた時と破損までに時間差があるからです。ヒビの場合は、気づかない程度の衝撃でも入ることがあります。(いわゆる打ち所が悪かった) 衝撃を受けた場所にも寄りますが、ヒビは薄いところ(弱い)や力のかかる部分に伸びていく傾向があります。

右の急須もアイボリー色ですのでヒビに茶渋やよごれが入りはっきり見えますが朱泥や特に黒泥の急須ではヒビを認知することは難しいです。

\* 使っていた急須がある日突然急須が壊れるということがありますが、それは以前にヒビが入っていたということに起因します。破損するほどの衝撃なら気づきますが、ヒビの場合は、気づかない程度の衝撃でも入ることがあります。(いわゆる打ち所が悪かった) 衝撃を受けた場所にも寄りますが、ヒビは薄いところ(弱い)や力のかかる部分に伸びていく傾向があります。

右の急須は、私どもが使っていてヒビを見つけました。ヒビが入った直後(推定)でしたのでお茶がにじみ出てきました。そのまま使いましたところ翌日は、水漏れがなくなりました。茶渋等で埋まったのだと考えられます。実験のため以後3週間ほど使い続けています。ただヒビは大きくなっています。



### キズ、ヒビの見分け方

手の平の上で軽く叩きますとヒビや傷のないものは、乾いた金属音のような音がします。ヒビのある物は、鈍い音がします。焼物は、焼成温度が高く焼きしまった物ほど金属音に近い高音になります。



### 焼キズ

右写真 口の部分の接着が悪いもの。

手と胴の乾燥に不具合があって接着が悪くて手がとれたもの、これらの場合は、叩くと焼成前に原因があるので金属音がします。これで焼キズか後キズか判断します。

### 蓋のつまみ

手造りの物は、轆轤で引いて削りだして作ります。型物の急須は、つまみを泥で後付けします。製法が違います。

